

行仙宿と持経宿

◇実施日 5月3日(土)、4日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、畑林秀味、松本吉殖、橋本梓、

大江加予子・徳子、阪口雄二、杉本和巳、梶野照雄

10名

地藏岳のクサリに倒木が引っ掛かっていたことが、順峰中の藤原君の報告で判り、修理が必要かと思いついた点検修理に向かう予定だったが、詳細が判明。クサリに異常は無く、修理の必要もないことが判った。児嶋さんが、乾さんの入宿を受けて行仙宿に行く、というので急遽皆さんに呼びかけた結果10名の参加となった。



エンジンオイル交換



乾さん到着



登山者に対応

児嶋さんは行仙宿に一泊するので、午前9時バイクで登山口に。9時少し前、青木君がモノレールを無人で降ろしてくれたので児嶋、梶野の2名を残し、荷物をモノレールに積み込んでから小屋を目指した。心配していたモノレールの走行も問題なかったようで、終点から手分けして水や食材を運んだ。

小屋に着いて、青木、坂田のお二人は一時下山。児嶋さんは発電機の点検とオイル交換。松本君はブロワーで屋根の落ち葉掃除と小屋周辺の清掃。また、補給路の一五曲、七曲の段差材作りも行った。昼食中に乾さんと山友の中西君が到着した。食後、乾、中西、児嶋、松本、阪口、杉本の6名が行仙岳北側の捲き道分岐にある石柱の傾き修復に向かった。午後2時過ぎに青木、坂田のお二人が戻り、行仙岳班も帰ってきたので小屋番をバトンタッチして下山した。段差材40本をモノレール旧終点にデポし、登山口で持経宿に向かって明日迄小屋番を務める梶野君と別れた。青木君からは5月5日にガソリンなどを荷揚げして欲しいと要請があった。(記：沖崎)

5月4日(日)

午前、青木君から電話があり、ガソリンの他単4乾電池、どんぶり用の紙食器、水、昼・夕の食材の荷揚げ要請があった。また、大江さんからの電話で、畑林清子さんが昨日、自転車乗車中に転倒。骨折の疑いがあるので入院した。と一報があった。

行仙宿に一泊した乾、児嶋、中西の3名が昨日手の付けられなかった行仙岳北側の段差補修作業を実行してくれたようだ。夕方、児嶋さんから、モノレールのセルモーターの不調を、明日修理に行く。と涙の出るような申し出を頂いた。午後2時半ごろに梶野君から電

話があり、持経宿には17名が宿泊し、満室の状態、テント持参の若者にテント泊をお願いして事なきを得た。と対応が大変だったらしい。村吉さんのご苦労がよく判ったとの話もあった。池郷林道は降雨の影響はほとんど見られず、通常の路面状況だったそうだ。

持経宿

5月3日(土)

午後3時に補給路登山口で皆と別れ持経宿へ向かった。池郷林道は心配された崩土は無く、27日に通った時と同じ状態だった。ゲート先、最初の舗装個所で斜木を切除、4回車を降りて落石を取り除いた。持経宿に着くと宿泊者が6名。夕食の準備をしていた。10リッターのガソリン缶を降ろし、発電機を動かす。ディスクグラインダーでストーブ焚き口の邪魔なアングルを切断した。これで薪をスムーズに入れられるようになった。



倒木を切除



テントは7張



満室になった

寝袋や弁当を小屋に運び、27日と同じように更衣室を寝床にした。石油ストーブも点火し、室温は18℃になった。屋外は風が強く、外気温は12℃だった。登山者が続々と到着するが、予約者が9名で、そのうち2名は到着済み。残り7名の場所を確保すると2、3人のスペースが残るので、テントを持っている人はテント泊をお願いし、ご理解を頂いた。予約者も全員到着し、立ったまま夕食を摂る。午後7時頃に男女の登山者が「何とか泊まれませんか？」と入ってきた。玄関を上がった所に2人が横になれそうな広さがあったので、そこを案内した。午後8時前、一人の登山者が入ってきた。「泊まりますか？テント持って無いんで」という。ストーブと押入れの間が空いていたので、ここしかないよ、と答えると大変感謝された。テントは、以前整備した南の尾根上に5張、林道の東側に2張で人数は9人。小屋の宿泊者は17人だった。午後8時半に発電機を止め、就寝した。目が覚めて時計を見ると午後11時過ぎだった。窓の外が明るくなったので宿泊か？と思ったが、通り過ぎて行った。トイレに行くため外に出ると、トレランの男性がやってきた。コーラを一本売り話を聞くと、吉野から本宮までを眠らず走るといふ。20人ほどが参加しているらしい。その後も通過していく明かりが見えていた。

5月4日(日)

宿泊者のほとんどが午前5時に出発予定だったので、午前4時過ぎに発電機を動かして朝食と出発準備を始めた。風は若干収まったようだが、曇っていて日の出は望めなかった。行仙宿に泊まる7名を残し、他の人は全員が歩いて行った。テント泊の青年は昨日どん兵衛を二つ、今朝もまた一つと、三つもお買い上げいただいた。

午前8時前、行仙宿に泊まる7名が出発し静寂が戻った。ブロワーを出して小屋前の掃除、水をこぼして濡れた絨毯を外に出して天日干しをする。



最後の7名が出発

絨毯を干す

コーラ一本で下山

南下する登山者が続々と着き、その都度コーラをお買い上げいただいた。流石にビールは売れないと思っていたが、10時過ぎに一本売れた。前日に10リッターのポリタンクを担ぎ、水場迄行った。障害になりそうな落石はその時に取り除いていたので、車に20リッター3個と10リッター一個を積んで水を汲んできた。12時を過ぎてコーラの残りが1本になったので、行仙宿満室の可能性、と張り紙をして下山した。

(記：梶野)

行仙宿に水、食材などを荷揚げ

◇実施日 5月5日(月)

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、児嶋道夫、阪口雄二、大江徳子、

高階鈴子・美根子

7名

5月3日に青木君から、5日にガソリンなどを荷揚げして欲しいと要請があり、本日7名の参加で荷揚げを実施した。登山口では、小森からバイクで来た児嶋さんが、モノレールのセルモーターやフィルターなどを点検してくれた。沖崎がエンジンを起動して運転せよ、とのお達しで運転席に座りキーを回したら一発で始動した。児嶋さんも乗り込み終点へ向かう。水、ガソリン、食材などかなりの量があったが、阪口、湯川君がそれぞれポリタンクを2缶持つてくれたお陰で、往復することなく荷揚げを完了できた。



小屋玄関

マキ割り

補給路の拡幅

小屋に着いた時も、下山までの間も、玉置山方向へ歩く登山者の立ち寄りが多く、青木、坂田のお二人はその人達の対応に忙しい。昼食時には徳子ちゃんと高階さんも売り子として頑張ってください。空き缶やからのペットボトルの片付けやごみの分別・焼却。マ

キ割りや売り子、縦走者へ情報提供なども行った。

この日、厄介な問題が発生。南側トイレの便座が壊れて使えないと聞き、確認すると便座が下に落ちて、座ることができない状態だった。ドアに使用禁止の張り紙を付けたが、正確な状態が確認できないまま下山したので、次回（5月8日）の訪問時に対応をすることにした。

（記：沖崎）

5月6日（火）

この日、会員の入宿は無し。今週末の熊野修験40人、行仙宿泊の対応準備や、トイレの便座修理をどうするかなど、考えることが多い一日だった。

5月7日（水）

今日午前で青木、坂田のお二人が行仙宿を下山しゴールデンウィークの小屋番は終了した。下山後、わざわざ沖崎宅に立ち寄って頂き、種々の報告を頂いた。缶ビールやコーラの残量、水タンクの残量他、連休中の宿泊者数が98名だったこと。問題のない人が殆どだったが、財布を落として現金を貸した人や山の常識から外れた人の対応で時間を取られたそう。昨年以上の食品も並べ、販売にも熱心に取り組んでいただき、多くの登山者も感謝しているようだ。10泊11日間の小屋番を引き受けていただいた。簡単に出来ることではないので、大変感謝している。厚くお礼申し上げます。

また、乾、中西、児嶋さんも2泊3日の行仙宿小屋番。梶野君は二度、瀧本さんは一度の持経宿小屋番を担当。村吉さんのピンチヒッターの役目を果たされた。

皆さんのご協力で今年のゴールデンウィークも乗り越えることが出来、重ねてお礼申し上げます。期間中、事故や大きなトラブルもなく終えることが出来、ホッとしています。

（記：沖崎）